

平成29年度 鳥取県西部地区中学校学びの共同体研究会 実施レポート

期日 平成29年6月20日(火)

会場 境港市立第一中学校

◎ 研究テーマ 「学びの共同体」(協同的な学び)の理論と実践

◎ 指導助言者 学びの共同体スーパーバイザー(元東大阪市立金岡中学校長) 馬場 宏明 先生

1. 公開授業および指導助言(9:55~12:55)

○理科

1年生の授業では、光合成に必要な4つの要素について考えさせていた。ジャンプ課題は、生徒が関心を持って取り組めるものであると同時に、授業前半で身につけた知識を活用するものであった。一斉授業による教師の説明では上滑りになりがちな知識・理解が、ジャンプ課題に取り組むことで、理解を深めることができたと思われる。2・3年生は理科室で実験をしていたが、道具がしっかりと用意されており、全員が参加できる授業であった。

○社会科

2年生の授業のジャンプ課題は、地図記号の意味や縮尺について理解を深めながら取り組むものであった。課題がよく工夫されており、班で協力しながら生徒はとても意欲的に取り組んでいた。落ち着きのなさそうな生徒も一生懸命取り組み、発表も進んで行っていた。3年生は歴史の授業だったが、デジタル教科書を使った視覚的にわかりやすい授業であった。「学びの共同体」においては、「もの・こと・ひと」とのかかわりが大切だと言われている。写真を見ながら考えさせる課題はとてもよい。

○英語科

「話す・聴く」に重点を置いた授業で、全員がしっかりと発音していた。ペアでの発音が終わると立たせていたが、それも全員が取り組むよい仕掛けとなっていた。また、ほとんどが男女ペアであったがしっかりと活動しており、普段から生徒同士のかかわり合いができていると感じられた。課題も工夫されており、共有課題で学んだことをジャンプ課題にうまくつなげていた。

○数学科

グループ学習の場面であったが、生徒がしっかりと課題に取り組んでいた。教師は、班や個人に個別にかかわることなく、全体の学習の様子を観察していてよかった。また、学習内容をノートに自分の言葉で書くようにしていたが、文章化することは自分の考えを整理するのに大変有効である。

○全体を通して

グループの組み方はもう一度考える必要がある。1年生は、学習班と生活班を分けていたので、グループ学習は3~4人で適当であったが、2・3年生については、生活班をそのまま学習班にしているため、5人のグループがあった。5人では2人と3人に分かれたり、ひどいときは4人が学習しているのに1人だけ蚊帳の外にすることが起きてしまう。座席については、班にこだわらずにもう少し柔軟に考えて、授業ごとに人数調整してもよい。

授業によっては、教師がしゃべりすぎている場面があった。時間が足りないので、ついつい説明してしまうのだと思われるが、生徒は理解しきれずに消化不良になっていた。中には教師の話を見聞かずに手悪さをしたり、ぼーっとしている生徒がいた。教師は説明することに一生懸命になっているので、生徒のそういう姿に気づいていない。共有課題の段階から、生徒が自ら課題に取り組む授業スタイルをつくっていかないといけない。

2. 研究授業（14:25~15:15）

1年数学「文字式の計算」（授業デザインは別紙）

授業参観の視点……「学びの共同体」（協同学習）の理論・方法を取り入れ、かかわり合い学び合う主体的な活動を通して、「確かな学力と豊かな心を育み、みんなと生きる生徒の育成」をめざした学習活動の展開

①生徒が主体的に学び、学習（教科）のねらいを達成する（確かな学力を育む）ための「学ぶ値打ちのある課題」となっているか。

- ・「共有の課題」（基礎・基本、知識・理解、技能）
- ・「ジャンプ課題」（応用・発展、技能、思考・判断・表現力）

②個々の生徒の学びや、生徒同士のかかわり合い学び合い（班・全体）が成立していたか。

- ・「共有の課題」における班活動（個人作業の協同化…わからないときに聞く）
- ・「ジャンプ課題」における班活動（他者の意見を聞き、自分の考えを深め広げる）
- ・全体学習（対面）……表現の共有（聴き合い、生徒の意見をつなぐ）

3. 研究協議および指導助言（15:30~17:00）

（1）開会あいさつ （2）授業者の自評 （3）グループ討議（4人グループに分かれて協議）

（4）指導助言

班になるスピードが速く、また静かにできていたのは大変すばらしい。また、班になっても静かに集中して問題に取り組んでいた。生徒が一生懸命学習に取り組む光景があるかどうか、授業がうまくいっている一つの指標になる。共有課題においては「最初は一人で考えよう」ということを徹底する。自分で考えないで人に聞く癖がつかないようにする。導入を工夫したり、何をすることがはっきりしており、興味を引く課題であれば、生徒は自然と課題に取り組む。

グループ学習のときに先生に聞こうとする生徒がいるが、すぐに答えてはいけない。まずは、同じグループの他の生徒につなげるようにする。そうしないとグループ学習がうまくいかなくなる。共有課題におけるグループ学習は、初めは静かに取り組み、しばらくしてから聴き合いが生まれるのがよい。グループ学習があまり長すぎると、緊張感が疲れに変わってくるので、生徒の活動の様子を見て、適当なところで切り上げる。

学級全体で答えの確認をするときも大事である。グループ学習のときは、教師はあまり動き回らずに教室全体を見渡し、生徒の活動の様子を確認するのがよいが、頃合いを見計らって机間巡視を行い、指名する生徒を探しておく。ワークシートやノートを見れば、学びの状況がわかる。また、頭だけで考えるよりも、書くことで自分の考えが深まったりまとまったりするので、書くことは有効である。

教師や生徒が全体場で「どうですか」と聞くときがある。多くの生徒は「いいです」と応えるので、わからない子は黙ってしまう。そうすると、わからない子は取り残されてしまう。だから、「質問はありませんか」とか「わからない人はいませんか」などと聞くのがよい。

今日の課題は文章題であったので、もっと具体性を持って考えさせたほうがよかった。小学校の授業では、よく具体物を使ってイメージさせている。今日は、数式で考える授業であったが、生徒たちはイメージできていなかった。共有課題をしているときに、わからない生徒が出てくることがある。教師はあまり考えすぎずにジャンプ課題に進めばよい。ジャンプ課題は共有課題が理解できていないとできないので、生徒同士の学び合いの中で理解していくことができる。自分たちで解決していくので、学ぶ楽しさを感じることもできる。

